



沖歯科医院便り

発行/沖歯科医院 〒053-0855 苫小牧市見山町4丁目1-6

☎0144(72)8558 ☎0800(800)8545

<http://www.oki-dentalclinic.com/>



妊婦さん必見！赤ちゃんのために歯科健診を受けましょう

母子手帳には歯科検診の項目があるのをご存知ですか？妊娠時は生活リズムも変わり、お口の中にも様々な変化が起きやすい期間です。生まれてくる赤ちゃんに影響する事柄も有りますので、時期を見て歯科検診を受けることをお勧めします。今回は妊娠時の口腔に関する注意点についてお伝えします。

妊娠性歯肉炎

一般に妊娠すると歯肉炎にかかりやすくなるといわれています。これは、妊娠時に増加する女性ホルモンが一部の歯周病原細菌の増殖を促すことが主な原因とされ、このホルモンは妊娠終期には月経時の10～30倍になるといわれています。そのため、妊娠中期から後期にかけて妊娠性歯肉炎のリスクが高まるのです。ただ、基本的にはプラークのない清潔な口の中では起こらないか、起こっても軽度です。妊娠中は特に気をつけてブラッシングを行いましょう。油断すると出産後に本格的な歯周病に移行する場合もあり、注意が必要です。

歯周病と低体重児出産

近年、さまざまな歯周病の全身への関与がわかってきました。歯周病による炎症が血流を介して全身に波及するため起こるとされていますが、なかでも妊娠している女性が歯周病に罹患している場合、低体重児および早産のリスクが高くなることが指摘されています。そのリスクは実に7倍にもものぼるといわれ、タバコやアルコール、高齢出産などよりも遥かに高い数字です。生まれてくる元気な赤ちゃんのために、確実な歯周病予防を行いましょう。

妊娠持はいつ歯科受診すればいいの？

妊娠初期（1～4か月）及び妊娠後期（8か月～）は母体及び胎児へのリスク回避の観点から、緊急を要する治療以外は控えるべきです。妊娠5か月頃の安定期に入れば、治療を受けることができます。ただし、必ず妊娠していることを伝えてください。つわりの時期が過ぎ、安定期に入ったら歯科検診を受けるのが理想です。その間であれば、必要に応じた治療を受けることが可能ですし、妊娠時の口腔ケアに関するアドバイスもうけられます。お腹が大きくなればなるほど治療の姿勢を保つのがつらくなるので、妊娠後期に入る前に、早めにすませておくのがおすすめです。

（日本臨床歯周病学会 HP より一部引用）

歯科医師 沖 佑希哉